

日常保育での活動の取組状況確認について

1 こまどり保育園での取組状況確認

- (1) 訪問日時 令和 8 年 5 月 13 日（水）
- (2) 内容 夏祭りのお神輿制作について子どもの意見を聞く
- (3) 対象 5 歳児ツバメクラス（児童 19 人、保育士 1 人）
- (4) 訪問者 専門部会委員（島崎委員、中西委員）
事務局（菱川、越川、園田、佐々木）
- (5) 状況の報告について
 - ・本題に入る前に 15 分間ほど、担任が本題とは別のこと、「自分の名前」「今日の朝は何を食べたか」などについて質問し、子どもが全員発言できる流れを作っていた。
 - ・今回のクラスは 0 歳から同じ担任が担当し、普段から話ができる関係性ができていた。
 - ・どのようなお神輿を作りたいか、について子どもから複数の意見が出ていたが、最終的に、子どもからみんなの意見をまとめる発言があり、作りたいお神輿を決めることができていた。
 - ・担任が子どもの意見を一人ずつ聞く際に、出た意見を付箋に書き、ホワイトボードに貼ったり、形についての子どもの意見を絵で書いて、子どもも目の前で示していた。
 - ・反対意見を言った子に対しても、担任が一度受け止め、違う方向性で、じゃあこの部分についてはどう思う？と聞いていた。子どもは、自分以外の意見に対しても否定したりしていなかった。
 - ・お神輿のデザインを考えるにあたって、普段も子どもたち全員が見ている絵本を見せて話していて、事前準備ができていた。

2 西原保育園での取組状況確認

- (1) 訪問日時 令和 8 年 6 月 4 日（木）
- (2) 内容 夏祭りのこと（出店の看板を子どもたちが作成）
- (3) 対象 5 歳児クラス
- (4) 訪問者 専門部会委員（小野部会長、島崎委員、辻委員、中西委員、林委員）
事務局（越川）
- (5) 状況の報告について
 - ・子どもへの対応の仕方は、こまどり保育園と共通するところがあった。ただし、西原保育園では制作をすることが主であったので、グループごとに取り組んでいた。いずれにしても、当たり前保育士と園児信頼関係がある中で、子どもたちが安心して自分の気持ちを表現して、それが受け止められているということがわかった。
 - ・子どもたちが、色紙が置いてある場所に自由に取りに行く様子を見ていたが、男女

関係なく自分の好きな色を選んでおり、制限されない自由さがあった。

- ・グループに付いている保育士が2名いたが、適度に自由に子どもに話をさせ、必要があれば声をかけて、見ているというような形で、子どもたちの手元と意見とをよく見て聞いて、考えを取り入れながらも自由に制作ができるようにしていて、良い関わり方だと感じた。

3 取組状況を確認してのまとめ

- ・「子どもを決して否定しない」というところが素晴らしかった。反対意見を言った子に対しても、担任が一度受け止めていた。子どもたちも、自分以外の意見に対しても否定したりしていなかった。
- ・保育園年齢から、自分の意見を受け止めてもらう経験をできると、どこにいても安心でき、自分自身も他の子の意見を受け止めることができる子どもになっていくのではないかと考えられる。小学生になってからも、この経験をしているかどうかによって、違いが出てくるのではないか。
- ・両園とも公立保育園であったため、複数年担当をし、子どもたちとの関わりがよくできる保育士が多い印象であった。ベテランの保育士も多く感じた。私立ではまた保育士の状況も違うと思うので、私立園がどのような状況なのかが気になる。